

## ダイアリー 19/04/08

やあ、みんな

長い間ダイアリーを待たせてごめんね。ここ数ヶ月、かなり忙しかったんだ。やっと時間ができて考えをまとめたから、聞いてよね。

近況報告をする前に、最近出た僕に関する記事について、言っておきたいことがあるんだ。見た人もいると思うけど、デイリーメールが2月にインタビューした僕の記事を掲載した。内容は、当時オープニングを予定していた「ゾロ」について、のはずだった。ところが実際掲載された記事ときたら、ほとんどがでっち上げだったんだ。インタビューを受けている間も、この記者は話題を自分が振りたい方向へ持っていくようにしているな、とは感じていた。いくら僕が話題をゾロに戻そうとしても、僕の昔のキャリアの話にばかり固執していたからね。僕はこの記事から完全に距離を置くつもりでいる。記事が呈する見解は、僕自身の見解を代弁するものではないし、何もかも不愉快極まりないんだ。記事を読んですぐ僕はエージェントに連絡して、こんなふうに書かれて怒っていることを伝えた。あの記事が新聞に掲載されてしまったことで感情を害する人がいたら、誰に対してでも謝罪したいと思う。記事が掲載される前に間違いをチェックすることは、残念ながら僕たちにはできない。でももう二度と、あの新聞社のインタビューを受けるつもりはないよ。断言する。あの記事の中の僕の話がいかにも僕らしくなく聞こえるか、僕を知っている人たちが分かってくれればいいんだけど。そして僕を知らない人たちも、どうか大目に見てほしい。心配しているというメールをウェブサイト経由で何通かもらったので、自分で返事を出しておいたけれど、こうしてコメントしたことで事態が収束してほしいと願ってる。

じゃ、もっとハッピーな話題に戻って;

僕はここ3カ月半を、非常に刺激的なショーの一員として過ごした。幸運にもミュージカル「ゾロ」のラモン役にキャスティングされて、ツアーでもとても楽しく演じることができた。一部悲惨なこともあったけど、その話はまた後で。リハーサルは1月初旬、ロンドンのアルフォード・ハウス(愛称オーフル・ハウス(=悲惨な劇場)。理由は明白。)でスタートした。最初から、自分は類まれな作品の一員なんだと、はっきり感じていたよ。キャストはイギリス人とスペイン人の歌手、俳優、ダンサー(それに素敵なアメリカ人が1名)の混合キャスト、そして優秀かつ刺激的なクリエイティブ・チームという編成。6週間のリハーサルが進むにつれ、自分達が単に素晴らしいだけでなく、革新的なものになる可能性を秘めた作品に着手しつつあることが、ますます明らかになっていった。僕はまた悪役を演じられて楽しかったよ。ロイヤル・バレエにいた時、僕がしばしば悪役にキャスティングされたのを知っている人もいるよね。それにももちろんブラック・スワンやヴァルモンも、両親に会わせたい人物だとは言い難いよね!僕にとっての最大のチャレンジは、ディレクターの求めで自分の声をしゃ

がれた低音に変えることだった。もうダメ、という局面もあったけれど、どうにか満足できるところまで持って行けたよ。もっともそれを聞いているメンバーからは、しょっちゅう心配の声が上がっていたけどね。みんなを退屈させるだろうからツアーの細かい話はしないけど、いくつか事件があったんだ。一番忘れられないのはグラスゴーでのこと。技術的な問題で、最初の2公演をキャンセルするはめになったんだ。「ゾロ」の壮麗なセット(トム・パイパーの輝かしいデザイン)は、劇場に設置するようデザインされたもので、明らかにツアー向けではないんだ。だからどのツアー先でも、日曜の夜に搬入して水曜日の公演まで準備にかかってしまう。ところがグラスゴーでは、初日が火曜日にスケジュールされていた。おまけにここは、ツアー先で唯一、傾斜舞台(ステージがまっすぐではなく、僅かに傾斜していること)だったんだ。とにかく僕らは、場面転換をリハする時間が無いまま、1時間遅れで初演を開演した。が、開演20分後、舞台主任がセットの下敷きになって、舞台が中断してしまったんだ。舞台主任の怪我は幸い大事に至らなかったで、僕らは翌日のマチネをキャンセルして場面転換をきちんと確認し、水曜の夜やっと全幕開演にこぎつけた。こんな状態になってしまって、僕らはとても動揺したよ。でもありがたいことに、翌週火曜日のマンチェスターの夜の公演はキャンセルになったので、同様のトラブルが発生することはなかった。ツアーのもう一つの思い出は、もうすぐ結婚するレスリー・マルゲリータ(アメリカ人メンバー)の祝賀会に、カンパニーの面々と夜出かけたこと。レスリーはツアー最終の土曜日にアメリカへ戻って結婚するんだけど、イギリスにもう3ヶ月もいるので、イギリスで言うヘン(=雌鳥)・ナイト、つまり独身お別れパーティーが出来なかったんだ。で、ある夜、みんなでマンチェスターのバードケージ(=鳥かご)というオカマバーに出かけて、大いに盛り上がった。ヴェールとガーター姿のレスリーと、みんなで素晴らしいオカマショーを見て、自分達も踊って馬鹿騒ぎして(舞台のポールをつかんで踊るやつまでいた)、もう最高だったよ! ツアーの最終日は先週の土曜日。ミルトン・キーンズでの最後の週は素晴らしく、千秋楽も盛況だった。

現在「ゾロ」はウェストエンド公演に向けて待機中だけど、僕はもう参加しないことにした。数日前電話があって、シナリオを大幅に書き直すことになり、僕のパートがごっそり削られると言われたんだ。僕の最初の歌「セニョール」もカット、第2幕初めのソロもカットされて、僕のパートはオリジナルより随分少なくなってしまったから。こんなにたくさんカットされては、この役を続けることは不可能だと思う。この状況はとても悲しいけれど、自分ではどうにもならないことだからね。とにかく公演関係者全員の今後の成功を祈ってる。カンパニーのみんなに会えなくなって、とても寂しいけど。

さて、大、大、大ニュー———ス!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!!

才能あふれる我が麗しの妻サラと僕に、今年8月、赤ちゃんクーパーが生まれるよ。僕らはもちろん天にも昇る心地で、もうワクワクドキドキ。今のところサラも、妊婦生活をとても楽しんでる。

仕事のニュースはまたすぐに知らせるね。

みんなずっと僕をサポートしてくれてありがとう。すぐまた劇場でみんなと会えるとい  
いな！

愛をこめて アダム x